

# ジュニア ミュージアム

## 「教わったこと」

三沢小5年（4年生の時の作品です）



福田 優華さん  
ゆうか

「配役決めをします。」  
いぶきちゃんが、大きな声で言った。この日の総合の時間は、六年生を送る会でやる、げきの配役決めの日だった。

みんなは少し迷っていたけれど、わたしは、「もう決まっていたんだ。」と自慢気に思っていた。  
でも、その時、親友の志穂ちゃんが、わたしがやりたい役に、立候補したのだ。その瞬間、わたしの目の前は真っ暗になり、頭の中

が、迷いでいっぱいになった。わたしは、すんなり決まると思っていたからだ。

そこで、わたしと志穂ちゃんは二人で話し合いをすることになった。でも、どうしても、ゆずりたくなかった。志穂ちゃんよりもわたしのほうができると思っていたからだ。

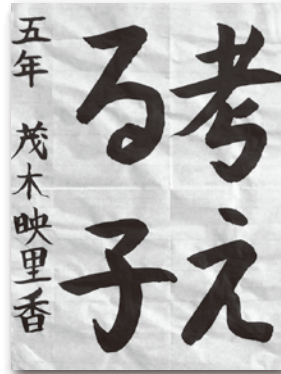
その時、志穂ちゃんがつつ然、「わたしがね、お姫様役をやりたいのは、今までは、人にゆずっていたけど、でも、この機会に、その自分を変えたいの。だから、お姫様役をやりたいんだ。」と言った。わたしは、びっくりして志穂ちゃんの顔を見た。でも、冗談ではないようだった。その時ふと思ったのだ。「こんな志穂ちゃんなら、わたし以上にやってくれる。」と。だから、思い切って、「わたし、ゆずります。」となみだをこらえて言った。

でも、ゆずった後に「ゆずらなきゃ良かった。」と後かいの気持ちが出てきて、がまんしていたなみだが一気にあふれてきた。すごく悲しくて、なみだが止まらなかつた。  
少し気持ちが落ち着くと、わたしは、志穂ちゃんに「ありがとう。」と心の中で言っていた。志穂ちゃんのおかげで、なんでもかんでも、上手いかないことを教わったからだ。  
少しわたしは、心が成長した気がした。  
（評）自分の気持ちをしっかり見つけ、心の動きがよくわかる作文になりました。

皆野小6年（5年生の時の作品です）



茂木映里香さん  
えりか

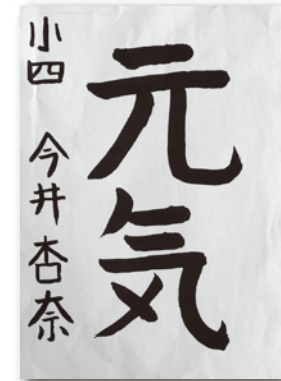


（評）名前までしっかりと書けました。

国神小5年（4年生の時の作品です）



今井 杏奈さん  
あんな



（評）「気」のそりが上手に書けています。全体的にバランスよく書けました。

皆野中卒業生（中学生の時の作品です）



中川 実歩くん  
みのぶ



〈本人のコメント〉学校帰りや兄弟、家族と一緒にいる時に、夕焼けや川には深い思い入れや特別な思い出があり、僕自身大好きな景色なので、三年間心を込めて描きました。

（評）にんじんやじゃがいもなどのやさしいスタンプをつくっておしました。お花ばたけがとてもきれいできました。



久保 萌花さん  
もえか

皆野小2年（1年生の時の作品です）

